

4 年 単元名「下水の処理と利用」 (全 12 時間)

段 階	時	学 習 活 動
I 「学 習 問 題の設定、 学 習 へ の 見 通 し」	① ②	○使った後の水のゆくえについて話し合い、本単元の学習問題、学習課題を設定する。 ・使った後の水がどこにいくのかについて話し合う。 ・使った後の水のゆくえについて、学習問題を立て、学習の計画を話し合う。 【学習問題】 水は、使った後はどこへいくのだろう。水のゆくえを流れ図にまとめて、そのひみつを探ろう。
II 「現 状 の 理解、問題 点の把握」	③ ④ ⑤ ⑥	○使用後の水のゆくえについて調べ、分かったことを流れ図にまとめる。 ・下水処理場の位置や処理の仕組みについて、資料をもとに調べ、流れ図にまとめる。 ・下水の処理や、処理した後の資源の再利用の取り組みについて、ビデオを見て調べる。 ・下水処理場を見学し、下水処理の仕組みを調べる。
III 「深 ま っ た 課 題 の 設定」	⑦	○下水処理場の方から聞いた季節別運転管理の取り組みについて調べ、深まった課題をつくる。 【深まった課題】 水をきれいにするはずの下水処理場が、完全にきれいにしていない水を海に流しているのはなぜだろう？
IV 「多 角 的 に 考 察、選 択・判断」	⑧ ⑨ ⑩ ⑪ (本時)	○様々な立場の方の話を聞き、それらをもとに下水処理場がこれから大切にしていすべきことを話し合う。 ・海苔の色落ちの現状について、漁場者の方に話を聞く。 ・季節別運転管理のねらいや、様々な考え方について、香川大学の先生から話を聞く。 ・季節別運転管理をどのように行っていけばよいかについて、自分の考えをもつ。 ・様々な立場の考えをもとに、下水処理場がこれから大切にしていすべきことについて話し合う。
V 「自 分 な り の 最 適 解の表出」	⑫	○学んだことをもとに、これからの自分にできることを選択・判断する。

本時の学習指導

(1) 目標

下水処理場の季節別運転管理の取り組みについて、友達と話し合うことを通して、自分の考えを再構成し、意見書に書く内容を考えることができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	問題を解決していく過程	教師の指導と評価
【単元の課題】 水道の水は、どのように送られてきて、使った後はどうなるのだろう。水がたどる道筋を流れ図にまとめて、そのひみつを探ろう。		○ 単元の課題や、これまで調べてきたことを振り返ることができるように、掲示しておく。
1 前時の振り返りをする。	海苔の色落ちなどの問題が起こって、下水処理場では季節別運転管理の取り組みを試験的に続けていたね。	○ 香東川浄化センター方のビデオを流すことで、子どもたちが「自分たちの考えをまとめて、提案したい」という意欲を高められるようにする。 ○ 個々の考えを把握しておくことで、考えが異なる友達とできるだけ交流できるような環境設定を行う。 ○ 資料等を示しながら説明している姿、相手の意見に共感している姿、様々な立場の意見を多様に取り入れながら考えている姿を見取り、積極的に称賛したり、価値付けたりする。 評：季節別運転管理の取り組みについて、根拠を示しながら自分の考えを話すことや、様々な意見をもとに多角的に考える様子を評価指標に基づいて評価し、単元で目指す子どもの姿になるように支援する。 ○ どの考えに賛成なのかを、名前磁石で示すことで、自分の立場を明確にして議論することができるようにする。 ○ 様々な立場の人の考えに目を向けたり、それぞれを比較できるように掲示しておくことで、根拠を説明したり、多角的に考察したりする際に掲示物を活用できるようにする。 ○ 香川県議会で季節別運転管理の取り組みについて議論があったことを知らせることで、様々な人がこの取り組みについて話し合っていることを実感できるようにする。 ○ 意見書のイメージを示すことで、次時への意欲をもてるようにする。
2 本時の課題を確認する。	この取り組みは、立場によって異なった意見が出ていたね。様々な人の意見を聞いた上で、今日は最終的な自分の考えを決めよう。	
3 季節別運転管理について話し合う。 (1) グループで話し合う。	下水処理場は、これからどんなことを大切にして、季節別運転管理を進めていけばよいのだろう。	
	もっと多くの下水処理場で季節別運転管理の取り組みを進めるべきだ。複数の場所でした方が効果が出るから。 栄養素の多く入った水を多く排出すればいい。今のままでは本当に効果が出ていないから。 季節別運転管理の取り組みをしない方がいいと思う。だって、成果が出ているかどうか分からないから。 排水する場所をもっと海苔の養殖場に近い場所にすればいいと思う。今だと遠すぎると思う。	
	賛成！だって、他の県ですすでに複数の下水処理場で行っている聞いたよ。協力して行った方がよさそう。 確かにね。でもその栄養素の量の調節が難しそう。時季によって海の状態も変わって言うていたからね。 そうだよ。香川大学の先生も、効果ははっきりしていないのに海に行くのは、逆に海によくないかもと言っていたよ。 なるほど！でもそれだと海苔が塩素の影響を受けてしまうかもしれないという話もあったよね。	
(2) 全体で話し合う。	でも、いきなり多くの場所では始めるのではなく、海への影響を考えて少しずつ試しながら行うべきだよ。 海苔を育てている人が、「これ以上色落ちが進んだら困る」と言ったから、取り組み自体は進めていくべきだよ。 他県で出ている成果について調べて、それをもとに瀬戸内海でも効果があるかどうかを考えるのはどうかな。 排水する水の栄養素を高めることには反対だ。昔のように赤潮が発生したら、逆に魚がたくさん死んでしまう。	
	季節別運転管理は続けた方がいいという意見が多いね。でも、いきなり複数の下水処理場で取り入れることに慎重な考えも多いよ。	
	下水処理場は、水をきれいにするだけでなく海の環境に気を配るが大切だと思う。 下水処理場の人には、未来のことを考えるからこそ取り組みを続けているんだね。 問題を解決するためには、多くの人の考えを聞いて考えることが大切だな。	
4 本時のまとめをする。	社会の問題について、たくさんの人が様々な立場で考えたり話し合ったりすることが大切なんだね。ぼくたちも、様々な立場の考えを知るからこそ、難しい問題について自分の考えをもつことができたよ。これからは、生活の中で水について考え続けていきたいな。	
5 次時への見通しをもつ。	自分たちの考えを意見書に書いて、下水処理場の人に見てもらおう！少しでも参考にってもらえるといいな。	

4 年 単元名「地震からくらしを守る」(全 10 時間)

段 階	時	学 習 活 動
I 「学習問題の設定、学習への見通し」	① ②	○自然災害について話し合い、本単元の学習問題、学習課題を設定する。 ・香川県でこれまでに起こった自然災害について調べ、南海トラフ地震には周期があり、今後起こり得る災害であることを知る。 ・南海トラフ地震による香川県の被害想定から、単元の学習問題を設定し、調べるための計画を立てる。 【学習問題】 南海トラフ地震に対して、だれがどのように備えているのだろうか。人々の取り組みについて調べ、自分にできることを考えよう。
II 「現状の理解、問題点の把握」	③ ④ ⑤ ⑥	○地域の関係機関による対処や備えについて調べ、その役割について考える。 ・災害時の市役所、県庁、消防・警察、自衛隊の対処について、資料等で調べ、カードに書く。 ・カードを時系列で並べ替え、関係機関の対処についてまとめる。 ・関係機関のつながりについて調べ、ノートにまとめ、どのように連携して災害に対処する体制をとっているか、関係図にまとめる。 ・市役所や県庁、地域の備えについて調べ、ノートにまとめる。
III 「深まった課題の設定」	⑦	○高知県の災害対策について調べ、香川県と比較することを通して、深まった課題をつくる。 【深まった課題】 香川県の災害対策は、本当に今のままでよいのだろうか？高知県と比べて考えよう。
IV 「多角的に考察、選択・判断」	⑧ ⑨ (本時)	○香川県の災害対策が今のままでよいかどうかを話し合うことを通して、減災のために大切なことは何かを考える。 ・自分の立場を決め、その理由をこれまでの学びをもとに考える。 ・市役所や県庁の人の話、香川県の被害想定、高知県の災害対策など、様々な視点で話し合い、減災のために大切なことは何かを考える。
V 「自分なりの最適解の表出」	⑩	○南海トラフ地震に備えて、自分にできることを考え、ノートにまとめる。

本時の学習指導

(1) 目標

南海トラフ地震による香川県の被害を減らす取り組みについて、友達と話し合うことを通して、減災のために大切なことは何かを考えることができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	問題を解決していく過程	教師の指導と評価
【単元の課題】 南海トラフ地震に対して、だれがどのように備えているのだろう。人々の取り組みについて調べ、自分にできることを考えよう。		○ 単元の課題や、これまで調べてきたことをふり返ることができるように、掲示しておく。
1 前時のふり返りをする。	高知県では、香川県より多くの災害対策がされていて、危機意識も高かったよ。香川県も、課題に対して取り組みを進めていたよ。。 香川県の防災対策が今のままでよいかを決め、理由を考えたいね。みんなの考えを聞いて、最終的な自分の考えを決めよう。	○ 香川県の防災の課題を確認することで、「少しでも被害を減らすために、なんとかしたい」という意欲を高められるようにする。
2 本時の課題を確認する。	香川県では、これから先どのように地震への対策を進めていけばよいのだろう。	○ 個々の考えを把握しておくことで、考えが異なる友達とできるだけ交流できるような環境設定を行う。
3 減災の取り組みについて話し合う。 (1) ペアで話し合う。	対策は十分だと思うよ。県庁の人も市役所の人も、被害を減らすために耐震化や情報発信などをしていてから。 少しだけ足りない部分があるよ。家具の転倒防止をしていない人や、災害情報を知らない人がいるところだよ。 高知県と比べると足りていないよ。海沿いの人たちのために、津波避難タワーをつくった方がよいと思うよ。 対策が全然足りていないよ。だって、今地震がきたら、中小のため池が決壊して、大きな被害が出てしまうからだよ。 香川県は高知県より被害も少ないし、津波の到達時間も遅いから、今のままでも被害は減らせると思うよ。 ため池の工事も急いで欲しいけど、時間とお金がかかることだから、今のままを進めていけばいいと思うよ。 市民の意識も高知県の方が高いよ。香川県は、もっと避難の仕方や危険な場所の確認をする人を増やすべきだよ。 地域の自主防災組織の訓練に参加する人も決まっていって、参加していない人は助け合うことが難しそうだよ。	○ 資料等を示しながら説明している姿、相手の意見に共感している姿、様々な立場の意見を多様に取り入れながら考えている姿を見取り、積極的に称賛したり、価値付けたりする。
(2) 全体で話し合う。	確かに、津波対策はもう少し必要だな。津波避難ビルの位置をもっと知らせるといいと思うよ。 地震が起きた時に、危険が大きいところから優先して対策していくことが大切だと思うよ。 市民の危機意識を高めたり、対策を促したりする取り組みをもっとしていくべきだと思うよ。 今よりもっと防災にお金を使って、ため池の補修や啓発活動を進めるべきだと思うよ。 高知県と比べると、香川県は備えがまだ不十分で課題がありそうだよ。どんなことを大切にして対策を進めればよいだろう。 ぼくたち1人1人が、災害時にどのように対処するかを考えることが大切だ。 ため池の改修などで、身の回りの危険を少しでも減らしていくことが大切だよ。 みんなで訓練し、いざという時に助け合える関係をつくるのが大切だ。	評：減災の取り組みについて、根拠を示しながら自分の考えを話すことや、様々な意見をもとに多角的に考える様子を評価指標に基づいて評価し、単元で目指す子どもの姿になるように支援する。 ○ どの考えに賛成なのかを、名前磁石で示すことで、自分の立場を明確にして議論することができるようにする。
4 本時のまとめをする。	これから先、香川県では公助、共助、自助のどの取り組みについてもバランスよく進めていくことが大切だ。ぼくたち1人1人が、周りの人と話し合ったり、災害時にどうするかを考えたりすることも、減災のためには必要だね。	○ 県庁や市役所の取り組みに目を向けたり、それぞれを比較できるよう掲示しておくことで、根拠を説明したり、多角的に考察したりする際に掲示物を活用できるようにする。
5 次時への見通しをもつ。	災害に備えて、自分にできることを考えたいな。そして、考えたことを意見書に書いて、家族にも伝えたい。	○ 香川県議会でも、南海トラフ地震の取り組みについて議論があったことを知らせることで、様々な人がこの取り組みについて熱心に話し合っていることを実感できるようにする。 ○ 意見書のイメージを示すことで、次時への意欲をもてるようにする。

4 年 単元名「よみがえる桜御門 ～復元に込めた願い～」 (全 11 時間)

段 階	時	学 習 活 動
I 「学習問題の 設定、学習 への見通し」	① ②	○香川県の文化財や年中行事について話し合い、本単元の学習問題、学習課題を設定する。 ・香川県の文化財や年中行事について調べ、地図で分布を確認する。 ・身近な文化財として高松城に着目し、学習問題を立て、学習の計画を話し合う。 【学習問題】 文化財として残る高松城は、どのようにして今に受け継がれてきたのだろう。高松城の移り変わりを調べて、そのひみつを見付けよう。
II 「現状の 理解、問題 点の把握」	③ ④ ⑤	○高松城の移り変わりについて調べ、文化財保護のための人々の工夫や努力、願いを考える。 ・高松城のこれまでの歴史や取り組みについて調べ、年表にまとめる。 ・披雲閣や桜御門を見学したり、市の文化財課の人に話を聞いたりして、文化財保存事業の様子を捉え、人々の努力や願いについて考える。 ・動画や文化財課の人の話から桜御門復元の様子を詳しく調べ、込められた人々の願いや、文化財を継承することの意味について考える。
III 「深まった 課題の 設定」	⑥	○天守復元の現状について知り、深まった課題をつくる。 【深まった課題】 高松城をこれからも受け継いでいくためには、高松城で話題となっている天守復元を、どのように考えたらよいのだろう。
IV 「多角的 に考察、 選択・判 断」	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ (本時)	○天守復元について様々な立場の方の話を聞き、文化財としての高松城をこれから先も受け継いでいくために大切なことを話し合う。 ・天守復元や、天守の復元に向けた取り組みについて、市の文化財課の人に話を聞く。 ・天守復元について、玉藻公園管理事務所の所長さんに話を聞く。 ・天守復元について、市民団体の方に話を聞く。 ・様々な人の話や、高松城の移り変わり、これからの計画などをもとに、高松城を受け継いでいくために大切なことについて話し合う。
V 「自分な りの最適 解の表 出」	⑪	○話し合ったことをもとに、最終的な自分の考えを意見書に書く。

3 本時の学習指導

(1) 目標

- 様々な立場の方の意見をもとに、天守閣復元の在り方について話し合うことを通して、文化財としての高松城を今後も継承していくためには、保存と活用の両面が必要なのに気付いている。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	問題を解決していく過程	教師の指導と評価								
【単元の課題】 文化財として残る高松城は、どのようにして今に受け継がれてきたのだろう。高松城の移り変わりを調べて、そのひみつを見付けよう。		○ 単元の課題や、これまで調べてきたことをふり返ったり活用したりすることができるよう、掲示しておく。								
1 前時のふり返りをする。	桜御門や天守の復元について、様々な人に考えを聞いたね。学んだことをもとに、これから先の高松城について考えたいな。	○ 縦割り学級赤4組の子どもたちが「ちょうせん」の時間で経験したことを話す場を設けることで、玉藻公園の文化財としての魅力を再認識できるようにする。								
2 本時の課題を確認する。	高松城の文化財の価値を未来へ受け継ぐために、大切なことは何だろう。	○ 教師が個々の考えを把握しておくことで、考えが異なる友達との交流を促したり、根拠をもった対話ができるように支援したりする。								
3 天守復元の在り方について話し合う。 (1) グループで話し合う。	天守の復元について、様々な意見が出ていたね。天守復元について話し合っ、文化財を受け継ぐために大切なことを見付けよう。 <table><tr><td>すぐ復元するのいいよ。だって、市民団体が集めた署名からも、多くの市民が望んでいると分かるよ。</td><td>昔と同じ姿でないとだめだよ。桜御門だって、同じ姿で復元したから価値が出てくると思うよ。</td><td>天守は復元しないでもいいと思う。それより、今ある文化財を残す取り組みに力を入れるべきだよ。</td><td>もっと市民に天守のことを知ってもらう方が優先だと思うよ。天守復元の意味を伝えないとね。</td></tr><tr><td>天守の復元が実現したら、多くの人々が訪れて、高松城の文化財としての価値を知ってもらえると思うよ。</td><td>桜御門を調べた時に、文化財は、昔から変えずに受け継いでいくことが大事だと文化財課の人が言っていたよ。</td><td>天守復元にかかる費用を、高松城の他の文化財を保存するために使う方がいいよ。そのために入園料があるから。</td><td>だって、私のお母さんは天守のことを知らなかったよ。まずは知らない、文化財を受け継ぐことができないよ。</td></tr></table>	すぐ復元するのいいよ。だって、市民団体が集めた署名からも、多くの市民が望んでいると分かるよ。	昔と同じ姿でないとだめだよ。桜御門だって、同じ姿で復元したから価値が出てくると思うよ。	天守は復元しないでもいいと思う。それより、今ある文化財を残す取り組みに力を入れるべきだよ。	もっと市民に天守のことを知ってもらう方が優先だと思うよ。天守復元の意味を伝えないとね。	天守の復元が実現したら、多くの人々が訪れて、高松城の文化財としての価値を知ってもらえると思うよ。	桜御門を調べた時に、文化財は、昔から変えずに受け継いでいくことが大事だと文化財課の人が言っていたよ。	天守復元にかかる費用を、高松城の他の文化財を保存するために使う方がいいよ。そのために入園料があるから。	だって、私のお母さんは天守のことを知らなかったよ。まずは知らない、文化財を受け継ぐことができないよ。	○ 資料等を示しながら説明している姿や、相手の意見に共感している姿、様々な立場の意見を多様に取り入れながら考えている姿などを見取り、積極的に称賛したり、価値付けたりすることで、資質・能力の育成につなぐ。 評：天守閣の復元について、根拠を示しながら考えを話すことや、様々な意見をもとに多角的に考える様子を、評価指標に基づいて評価し、単元で目指す子どもの姿になるように支援する。
すぐ復元するのいいよ。だって、市民団体が集めた署名からも、多くの市民が望んでいると分かるよ。	昔と同じ姿でないとだめだよ。桜御門だって、同じ姿で復元したから価値が出てくると思うよ。	天守は復元しないでもいいと思う。それより、今ある文化財を残す取り組みに力を入れるべきだよ。	もっと市民に天守のことを知ってもらう方が優先だと思うよ。天守復元の意味を伝えないとね。							
天守の復元が実現したら、多くの人々が訪れて、高松城の文化財としての価値を知ってもらえると思うよ。	桜御門を調べた時に、文化財は、昔から変えずに受け継いでいくことが大事だと文化財課の人が言っていたよ。	天守復元にかかる費用を、高松城の他の文化財を保存するために使う方がいいよ。そのために入園料があるから。	だって、私のお母さんは天守のことを知らなかったよ。まずは知らない、文化財を受け継ぐことができないよ。							
(2) 全体で話し合う。	<table><tr><td>復元すれば、多くの人々が利用するから、高松城を知ってもらえる。でも昔のままの姿を伝える方が価値を分かってもらえるかも。</td><td>正確な情報を集めることをまずは大切にすべきだと思うよ。時間がかかるかもしれないけど、その方が価値が伝わると思う。</td><td>今あるものを残すだけでは、文化財の価値を知ってもらうことにはつながりにくいね。活用することで知ってもらえるね。</td><td>関心をもてば知ってもらえる。天守が復元されれば、多くの人が来て価値を知ってもらえるという意見には納得だね。</td></tr></table> 天守が復元されてもされなくても、高松城にある文化財を受け継いでいくためには、昔のままの姿で残し続けていくことと、多くの人に文化財のことを知ってもらうことが大切だと考えたよ。	復元すれば、多くの人々が利用するから、高松城を知ってもらえる。でも昔のままの姿を伝える方が価値を分かってもらえるかも。	正確な情報を集めることをまずは大切にすべきだと思うよ。時間がかかるかもしれないけど、その方が価値が伝わると思う。	今あるものを残すだけでは、文化財の価値を知ってもらうことにはつながりにくいね。活用することで知ってもらえるね。	関心をもてば知ってもらえる。天守が復元されれば、多くの人が来て価値を知ってもらえるという意見には納得だね。	○ どの考えに賛成なのかを名前磁石で示すことで、自分の立場を明確にして議論したり、考えの変容を自覚したりできるようにする。				
復元すれば、多くの人々が利用するから、高松城を知ってもらえる。でも昔のままの姿を伝える方が価値を分かってもらえるかも。	正確な情報を集めることをまずは大切にすべきだと思うよ。時間がかかるかもしれないけど、その方が価値が伝わると思う。	今あるものを残すだけでは、文化財の価値を知ってもらうことにはつながりにくいね。活用することで知ってもらえるね。	関心をもてば知ってもらえる。天守が復元されれば、多くの人が来て価値を知ってもらえるという意見には納得だね。							
4 本時のまとめをする。	高松城の文化財の価値をこれからも受け継いでいくためには、保存の取り組みを計画的に進めながら、多くの人に活用してもらい、文化財の価値を知ることができるような取り組みを続けていくことが大切だ。だから桜御門の中には多くの展示があったんだね！	○ 様々な立場の人の考えを掲示しておくことで、子どもたちが選択・判断したこと根拠を説明したり、多角的に考察したりする際に活用できるようにする。								
5 本時の学習をふり返り、次時への見通しをもつ。	高松城を受け継いでいくために、僕たちもできることがありそうだよ。次の時間は、高松城の文化財を受け継いでいくために自分ができそうなことについて考えて、文化財課の方に伝えたいな。	○ 本時の終末で、高松市文化財課の方に、子どもたちが話し合っ、見出したことについて、価値付けていただくことで、文化財を受け継ぐために、自分たちにもできることを考えようとする意欲を高められるようにする。								

4年 単元名「香川県『独立の父』中野武宮」（全12時間）

段 階	時	学 習 活 動
I 「学 習 問 題 の 設 定、学 習 へ の 見 通 し」	① ②	○中野武宮の営みや業績を概観し、学習問題をつくる。 ・県産品コンクール受賞のお菓子「武宮さん」から中野武宮に対する関心を高め、人物の業績について概観する。 ・調べたことをもとに、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 【学習問題】 なぜ中野武宮は「香川県独立の父」と呼ばれているのだろうか。中野武宮の業績をくわしく調べ、香川県独立の意味を考えよう。そして、小学生向け副読本「中野武宮伝」をつくり、県内の小学校に発信したり、顕彰会の会報に掲載したりしてもらおう。
II 「現 状 の 理 解、問 題 点 の 把 握」	③ ④ ⑤	○中野武宮の取り組みについて調べる。 ・中野武宮の生涯を年表や資料等から調べる。 ・香川県独立のために、中野武宮が取り組んだことを調べ、まとめる。
III 「深 ま っ た 課 題 の 設 定」	⑥ ⑦	○中野武宮顕彰会や放送局の方から中野武英についての話を聞き、資料からではなかなか分からない苦心や努力について知り、深まった課題を設定する。 ・中野武宮顕彰会や放送局の方から話をうかがう。 ・中野武宮の苦心や努力をまとめるとともに、深まった課題を設定する。 【深まった課題】 中野武宮の取り組みは今の香川県にどのような影響を与えているのだろうか。また、今後の香川県発展のヒントはないだろうか。今後の県の発展に必要なことを中野武宮の取り組みを手がかりに構想しよう。
IV 「多 角 的 に 考 察、選 択・判 断」	⑧ ⑨ ⑩	○中野武宮の取り組みから、今後の香川県の発展に向けた取り組みについて構想する。 ・現在の香川県の政治や経済の様子を整理し、中野武宮の取り組みがどう影響しているのか考える。 ・前時に整理した影響を比較・関連付け・総合し、今後の香川県の発展への取り組みについて話し合う。
V 「自 分 な り の 最 適 解 の 表 出」	⑪ ⑫	○地域の発展に大切なことについて考え、中野武宮伝を完成させる。 ・これまでの調べを振り返り、中野武宮の素晴らしさと今後の香川の発展のために、自分ができを考える。 ・これまでの学びをもとに、中野武宮伝を完成させる。

本時の学習指導

(1) 目標

- 中野武営の業績と香川県発展のつながりを整理する活動を通して、先人の働きにより、地域の人々の生活を向上させたいという願いが実現し、地域が発展してきたことを理解している。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	問題を解決していく過程	教師の指導と評価
【単元の課題】 なぜ中野武営は「香川県独立の父」と呼ばれているのだろうか。中野武営の業績を調べ、香川県独立の意味を考えよう。そして、小学生向け副読本「中野武営伝」を作り、県内の小学校や顕彰会の会報に掲載してもらおう。		○ これまでの学びをふり返し、単元の課題を共有し、現時点での自分の考える「中野武営の素晴らしさ」を整理しておく。
1 前時までの活動を振り返る。	中野武営の行った様々な取り組みが今の香川県の発展に大きく影響を与えていたんだね。 中野武営のよさを多くの人に知ってもらいたいな。 どの取り組みも香川県の発展に多くの影響を与えているけど、何を伝えと最も中野武営の素晴らしさが伝わるだろうか。	○ これまでの学びを手がかりにどのようなことを伝えていくことが必要かという課題を確認する。
2 本時の学習課題を確認する。	中野武営の素晴らしさを多くの人に伝えるために、何を伝えればよいだろうか。	○ 全体交流において個々の意見を共有できるように、一人一台端末を活用し、可視化しておく。
3 中野武営の行った業績の中で最も伝えたい取り組みについて考える。	やはり、香川県独立のために、愛媛の県議会の議長になったり、中央とつながったりしたことが大切だと思うよ。 銀行や電力会社、鉄道会社等の設立に関わったことが大切だと思うよ。香川の経済の基礎をつくったことは大きいよ。 私は港の整備をしたことを伝えたいな。高松港を整備したことで、四国の玄関として大きな役割を担うことができたよ。	○ 様々な業績の中で中野武営の素晴らしさを多くの人に知ってもらうためには、何を伝えることが大切かという視点を共有し話し合いを進める。
(1) 自分なりの解を確認する。		○ グループ交流では、自他の考えを確認し、お互いの考えの共通点や相違点、よさを共有する。
(2) グループで話し合う。	友達の意見と組み合わせて自分の考えを整理していくことで、より素晴らしさが伝わりそうだ。	○ 全体交流では、子どもたちの考えの根拠を関係図に整理することで、中野武営の業績と県の発展のつながりを可視化できるようにする。
(3) 全体交流で練り上げる。	中央とつながり、政治の中心として役割を担うことが大切だね。 色々な会社があって働きやすい環境であることが大切だね。 公共事業を発展させていくことで、町がどんどん栄えていくよ。	評：中野武営の業績を手がかりに、地域を開発することの意味を理解しているかどうかを、発言や表現したことから見取り、評価して、多角的な見方・考え方で問題を解決できるように指導に生かす。
4 本時の学習課題に対する納得解をまとめる。	中野武営は、香川県を独立させるだけでなく、銀行や電力会社の設立、鉄道などの公共事業の整備など多くのことに取り組んでいた。だから、様々な視点から香川の発展を考え、今後の香川の発展を見据えた取り組みを行ったことについて伝えたい。 中野武営の取り組みや香川県独立の父と呼ばれる理由が伝わる資料にするために何を載せたらいいかな。 独立と公共事業のつながりについて伝えたいな。 会社の発展や今後期待することを提案したいな。 中野武営の思いを受け継ぐことを伝えたいと思うよ。	○ 全体交流で出た解を手がかりに再度比較、検討するよう助言する。その際、業績と地域の発展とのつながりが伝わるかという視点で再検討できるよう支援する。
5 本時の活動をふり返し、次時の課題を確認する。	次時は、中野武営と同じように、私たちが香川を今よりももっと発展させるためにどんなことをすればよいか考え、私たちの思いや願いをまとめよう。	○ 次時は今後の香川県の発展への要望など、自分の考えや思いをプレゼン資料に追記する活動を行うことを予告することで、主権者として県政に自分の考えや思いを表出することの喜びを実感できるようにする。

4 年 単元名「国際交流がさかな直島町」 (全7時間)

段 階	時	学 習 活 動
I 「学習問題の設定、学習への見通し」	①	○直島町の地理的特徴や、観光客数の移り変わりについて調べることを通して、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 【学習問題】 観光客が少なかった直島町に、どのようにしてたくさんの観光客が来るようになったのだろう。
II 「現状の理解、問題点の把握」	② ③	○直島町の観光業の取り組みについて調べ、地図や年表にまとめる。 ・直島町にたくさんの観光客が来るようになるまでの移り変わりを調べて、年表にまとめる。 ・直島町には、どのような国から観光客がやって来るようになったのかを調べる。
III 「深まった課題の設定」	④	○これまで調べてきたことと、外国人観光客数と直島町の人口との比較から、深まった課題をつくる。 【深まった課題】 国際化する直島町の課題に対して、どのように対応していけばよいのだろう。
IV 「多角的に考察、選択・判断」	⑤ ⑥ (本時)	○国際化する直島町の課題に対する取り組みについて話し合い、直島町役場の方に提案する内容を決める。 ・直島町の課題に対する今後の取り組みについてアイデア考え、ノートにまとめる。 ・直島町役場の方に提案する取り組みについて、クラス全体で話し合う。
V 「自分なりの最適解の表出」	⑦	○話し合ったことをもとに、自分の考えを選択・判断し、意見文に書く。

4 年 単元名 「県内の特色ある地域 自然を生かしたまちづくり」 （全 8 時間）

段 階	時	学 習 活 動
I 「学 習 問 題の設定、 学 習 へ の 見 通 し」	① ②	○香川県三豊市の位置や特色、三豊市の観光客数の急増について知り、三豊市のまちづくりについて調べる学習問題を設定し、学習計画を立てる。 ・三豊市の位置や地形、名所などを調べ、地図にまとめる。 ・近年、三豊市の観光客数が急増していることを知り、三豊市のまちづくりについて調べる学習問題を設定し、学習計画を立てる。 【学習問題】 三豊市では、どのようなまちづくりが行なわれているのだろう。
II 「現 状 の 理解、問題 点の把握」	③ ④ ⑤	○三豊市で近年注目されている父母ヶ浜など自然を生かした観光産業とまちづくりのようすについて調べ、地図や年表にまとめる。 ・父母ヶ浜が、今のようにきれいになり観光客が増加した経緯について、ちちぶの会の取り組みを中心に調べ、年表にまとめる。 ・三豊市観光協会や父母ヶ浜ポート、三豊市などが協力して父母ヶ浜を生かしたまちづくりを行っている様子を調べ、関係図にまとめる。 ・三豊市がどのようなまちづくりを行っているか話し合い、まとめる。
III 「深 ま っ た 課 題 の 設定」	⑥	○香川県政策部地域活力推進課の方から、三豊市の移住促進 PR 動画の作成の依頼を受け、三豊市の魅力について考える深まった課題を設定する。 【深まった課題】 移住セミナーで伝えるべき三豊市の魅力ってなんだろう。伝えたい魅力をランキングに表して、地域活力推進課の方に提案しよう。
IV 「多 角 的 に 考 察、選 択・判断」	⑦ (本時)	○これまでの学びを生かして、三豊市の魅力を見出し、三豊市ランキング（1 位～3 位）を話し合い、合意形成する。 ・自分なりの考えをもち、調べ活動を行い、根拠となる資料やデータを見つけ、ノートにまとめる。三豊市の魅力を話し合う中で、「豊かな自然」「まちづくりに取り組む人々」「これからの発展」など三豊市や三豊市のまちづくりの魅力を捉え直す。
V 「自 分 な り の 最 適 解の表出」	⑧	○三豊市の自然を生かしたまちづくりに関する学習や三豊市ランキングを考えることを通して分かったこと、考えたことを、三豊市の魅力ランキングとしてまとめ、地域活力推進課の方に提案する。

3 本時の学習指導

(1) 目標

- 三豊市のまちづくりの魅力について話し合うことを通して、多様な人々が協力して、父母ヶ浜を保護・活用し、持続可能性を大切にしながらまちづくりを行っていることを理解している。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	問題を解決していく過程	教師の指導と評価
【単元の課題】		
	父母ヶ浜は、これまで観光客は2～3万人しか訪れていなかったのに、急激に増加し、今では約40万人以上もの観光客が国内外から訪れている。なぜ、父母ヶ浜には多くの観光客が訪れるようになったのだろう？三豊市のまちづくりの魅力を調べて、移住セミナーで発信する紹介文を作ろう。	○ 前単元で見出した、「地域の資源」「人々の協力」の視点を想起できるよう、具体例と共に掲示でまとめておく。
1 本時の課題を確認し、自分の考えを再確認する。	父母ヶ浜は、SNSなどのメディアの活用により、観光客が急増した。ちちぶの会を中心に、地域の人々が協力して、観光客を受け入れたり、父母ヶ浜の自然を守ったりしているよ。	○ これまでの学びを生かしながら思考することができるよう、まちづくりに関する人々の取り組みをまとめた表や、まちづくりの変遷をまとめた年表を掲示しておく。
2 個で考えた三豊市の魅力をグループ内で発表し類別する。	移住希望者に伝えるべき、三豊市のまちづくりの魅力とは何だろう？みんなで話し合い、移住セミナーで発信する内容を決めよう。	○ グループでの話し合いがスムーズに行えるよう、事前に個々で考えをもち、説明ができるようカード操作をしておく。
3 三豊市の魅力ランキングをグループで作成する。	【豊かな自然】 鏡のような写真 砂紋や生態系 美しい夕日 豊かな自然があることが、三豊市の魅力だ。都会にはない自然の魅力を伝えたい。 【人々の協力】 ちちぶの会の活動 渋滞の交通整理 住民参加イベント 地域の人々が協力してまちづくりに取り組んでいることが魅力だと思うよ。 【今後の発展】 新店舗の出店計画 イベントの開催 観光客の増加 自然を生かしたお店やイベントが魅力だ。仕事やにぎわいも移住者は気になるよ。	○ 多様な見方・考え方の表出を促すために、ランキング形式で意見をまとめる。全体交流では、意見の対立があるものを取り上げ、吟味を促す。
4 いくつかのグループの表現物をもとに、全体で吟味する。 (1) グループの考えを全体に発表する。 (2) 指定管理者「父母ヶ浜ポート」の理念について知る。	三豊市の魅力ランキングをグループで考えよう。	○ 持続可能性の考え方に話し合いを焦点化するために、自然の保護と今後の発展の取り組みは、どちらが大切か全体に問いかけ、思考をゆさぶる。
5 ランキングを修正したり、新たな表現の方法を創造したりする。	1位【豊かな自然】 2位【今後の発展】 3位【人々の協力】 父母ヶ浜の自然を守り、きれいな状態を保ってきたことが三豊市の魅力だよ。発展よりも自然を保護していることを伝えたいな。 1位【人々の協力】 2位【今後の発展】 3位【豊かな自然】 「自分のまちは自分でつくる」を合い言葉に、人々が協力していることを伝えたい。移住者の人もまちづくりに参加できることを伝えよう。 1位【今後の発展】 2位【豊かな自然】 3位【人々の協力】 自然の魅力だけでは移住者は増えない。今後、さらに発展し、にぎわっていく可能性を伝えることで移住者も安心すると思うよ。	○ 三豊市のまちづくりの特色を時間的、空間的、関係的な視点で捉え、自他の考えを比較しながら事象と事象をつなぎ、解を導き出しているか、評価指標をもとに評価する。人々の協力関係や持続可能性の視点を見出せていない子どもには、渋滞対策への具体的な人々の取り組みから気付くことができるよう、
6 本時の学習をまとめる。	渋滞問題と無料駐車場 指定管理者「父母ヶ浜ポート」の方の話 地域の人々は、今後の発展のことと、父母ヶ浜の自然や地域住民の生活を守ることの両方を実現できる方法を考えているんだ。 1位【豊かな自然】と【発展】の両立 2位【人々の協力】 自然を守りながらも、今後の発展も考えてまちづくりをしていることを伝えよう。 1位【人々のまちづくりの考え方や協力】 2位【豊かな自然】3位【今後の発展】 地元住民のことや、未来のまちの姿を考えてまちづくりに取り組んでいることを伝えよう。 三豊市のまちづくりの魅力は、地域の人々が【豊かな自然】や地元住民の生活を守りながらも、【今後の発展】のことも考えながら、【協力】してまちづくりを行っていることだね。 三豊市のまちづくりの魅力が分かったよ。東京や大阪の移住希望者が、移住したくなるような紹介文にまとめていこう。	○ 父母ヶ浜ポートの方の話を聞いて、これまでの知を再構成し、事象と事象の新たなつながりを表現できるよう、再度ランキングを修正したり、新たな表現方法を考えたりする時間を設定する。

5 年 単元名「低地のくらし」（全5時間）

段 階	時	学 習 活 動
I 「学習問題の設定、学習への見通し」	①	○過去と現在の海津市の様子の違いから学習問題をつくり、学習計画を立てる。 【学習問題】 水害に苦しめられていた海津市の人々のくらしが、今のよう に豊かになるために、どのような工夫があったのだろう。
II 「現状の理解、問題点の把握」	②	○海津市の水害の歴史や、水害の発生件数が大きく減ったわけを調べ、水害からくらしを守るための工夫をノートにまとめる。
III 「深まった課題の設定」	③	○海津市の農業の変遷や、トマトづくりがさかんになってきたことについて調べ、深まった課題をつくる。 【深まった課題】 海津市では、これから米づくりと野菜づくりのどちらに力を入れて農業を行っていけばよいのだろう。
IV 「多角的に考察、選択・判断」	④ (本時)	○海津市の農業について、どのように進めていけばよいかを選択・判断し、全体で話し合う。
V 「自分なりの最適解の表出」	⑤	○話し合ったことをもとに、自分の考えを意見文に書く。

本時の学習指導

- (1) 目標 海津市でトマトがたくさんとれる理由を話し合うことを通して、海津市の人々が自然条件を生かして生活していることに気付き、それをもとに自己の生き方や在り方を捉え直すことができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	児童の反応の広がりや深まり	教師の支援と評価
1 前時の振り返りをする。	海津市のトマト栽培の様子や生育条件などを調べてきたね。調べたことをもとに、今日はトマトがたくさんとれるわけを話し合いたい。	○ 教室掲示やノートをもとに学習内容を振り返ることで、本時への課題意識をもつことができるようにする。
2 本時の課題を確認する。	野菜の作付面積は少ないのに、海津市の人々は、なぜトマトをたくさん作ることができるのだろう。	○ 交流を促すことで、他者の考えと自己の考えを比較しながら知識を再構成していき、抽象的な概念にまで高まるようにする。
3 自分なりの解をもち、交流する。 (1) 自分の解をノートに書く。 (2) 友だちと交流し、自分の解とその根拠を説明する。	用水路の近くで育てることで、水を必要なだけ使えるようにしているからだよ。 海津市の中でも高いところで作ることで、水はけをよくしているからだよ。 広い平地に大型の温室を作れるから、たくさんのトマトを育てられるよ。 川に挟まれていて、栄養のある土地が広がっているからだよ。 栽培する場所の工夫 土地の高さを生かす 広い平地を生かす 栄養のある土地を生かす どれも土地に関係することばかりだね。海津市の人々は、土地の条件をうまく生かしてトマトを作っているんだね。	○ 全体交流では、「つまり？」「例えば？」と問うことで、具体と抽象を往還し、具体的な事実をもとにしながら概念化が図れるようにする。
4 教師の提示した資料をもとに、冬と春にトマトがたくさんとれるわけを話し合う。	← 夏秋トマト資料 あれ？冬春トマトは収穫量1位だけど、夏秋トマトは海津市ではほとんどとれていないよ。どうしてかな。 低地の海津市と山間部の白川村の雨温図を比べてみると、海津市は年間を通して暖かく、冬に雨が少なく。だから冬春トマトが育てやすいんだね。	○ 海津トマトと夏秋トマトの収穫量を表す資料を提示することで、さらに深い問いをもち、予想を話し合えるようにする。
5 本時のまとめをする。	海津市でトマトをたくさん作れるのは、海津市の人々が、土地の高さや育てる場所などを工夫したり、気温や降水量に合わせていい時期に作ったりと、その土地の自然に合わせてトマトを栽培しているから。	(評) トマトがたくさんとれる理由を、資料をもとにしながら適切に主張することができているかを、発言から評価する。
6 今後の海津市の農業の発展について話し合う。	・海津市の人たちは低地のマイナス面をプラスに生かした農業を行っている。 ・トマト以外の野菜についても栽培について検討し、品種を増やしていくことが必要ではないか。 ・広い平地を生かした農業についても考えていきたい。	

5 年 単元名「日本の水産業の未来」 (全7時間)

段 階	時	学 習 活 動
I 「学習問題の設定、学習への見通し」	①	○身の回りにある水産物や教科書の水産物の分布の資料などを活用して、日本の水産業について概観し、日本の水産業について詳しく調べる学習問題と学習計画を立てる。 【学習問題】 これからの日本の水産業の在り方を考え、ニュース番組にして発信しよう。
II 「現状の理解、問題点の把握」	② ③	○教科書から、日本の水産業の現状や課題、今後の在り方について調べ、取材メモとしてノートにまとめ、話し合う。 ・カツオの一本釣りや巻き網漁などの事例をもとに、沿岸・沖合・遠洋などの漁業の様子や水産加工の仕組みについて取材メモにまとめる。 ・養殖や栽培漁業の様子、運輸の仕組みなどについて取材メモにまとめる。
III 「深まった課題の設定」	④	○統計資料をもとに、日本の水産業の課題や今後の在り方などについて話し合い、深まった課題を設定する。 【深まった課題】 日本の水産業は今後どうなるのだろうか。香川県の事例をもとにして調べ、今後の水産業の在り方を考えていこう。
IV 「多角的に考察、選択・判断」	⑤ ⑥ (本時)	○香川の事例から日本の水産業の未来について考え、ニュースの主張点としてまとめる。。 ・香川県で盛んなハマチの養殖や一昨年から始まった讃岐さーもんの養殖について調べ、現状や課題についてノートにまとめる。 ・ハマチの養殖と讃岐さーもんの養殖の比較から、今後の養殖業の在り方について構想し、ニュース番組の主張点について話し合い、ノートにまとめる。
V 「自分なりの最適解の表出」	⑦	○水産業の未来について、香川県の具体的事例をもとに、ニュース番組の台本としてまとめる。

本時の学習指導

(1) 目標

- ・ ハマチと讃岐さーもんの養殖について調べてきたことを交流し、日本の水産業に生かしていけそうなよさを見付け、ニュースの主張としてまとめている。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	問題を解決していく過程	教師の指導と評価
【単元の課題】 これからの日本の水産業の在り方を考え、ニュース番組にして発信しよう。		
(前時)	これからの日本の水産業は、養殖業を中心にして生産を行っていくことが大切だと思うよ。 香川県で行われているハマチと讃岐さーもんの養殖についてこれまで調べてきたよ。	○ 単元を通した課題について意識できるようにこれまでの学習の流れを教室背面に掲示しておく。
1 前時までに学習してきたことを振り返り、本時のめあてをつかむ。	ハマチと讃岐さーもんの養殖から、日本の水産業についての展望をもち、ニュース番組の主張としてまとめよう。	○ ハマチと讃岐さーもんの養殖について調べてきたことを教室に掲示しておき、振り返られるようにしておく。
2 ハマチと讃岐さーもんの養殖から、今後の養殖業について構想する。	ハマチ ・ 香川はハマチ養殖発祥の地 ・ 5～12月にかけて養殖 ・ 10度以上でないと養殖できない ・ 引田独自の大型いけすで養殖 ・ オリーブの粉末を餌に ・ 病気を防ぐワクチンの開発 ・ ハマチのブランド化 ・ 冬に養殖しないので漁場が改善 ・ 通年で養殖できず、全国との差 ・ 年末は安くて売らざるを得ない 讃岐さーもん ・ 一昨年から養殖を開始 ・ 12～5月にかけて養殖 ・ 最適温度は15度以下 ・ 陸地で飼育していた稚魚を養殖 ・ 生サーモンの出荷が可能 ・ 漁連・飼料メーカーと協力 ・ 讃岐さーもんとしてブランド化 ・ 養殖方法が未確定で模索中 ・ 県全体の生産の中でごくわずか ・ 現在、企業が単独で事業化	○ 違いから分かるよさ、共通点から分かるよさの面から考えるよう助言する。
(1) ハマチとさーもんの養殖について、振り返る。	自然環境を生かす 瀬戸内海は、冬になると青森の海くらゐの温度まで下がり、ハマチが養殖できなくなり、頭打ちになっていた。そのことを逆に生かして、冷たい水温を生かして、さーもんの養殖を始めている。	評：ハマチと讃岐さーもんの養殖の対比から、香川の養殖のよさを見つけ、カードに書くことができるかどうかを想定した評価の指標をもとに評価し、自分が調べてきたことをもとに、香川の養殖のよさを自ら発見できるよう指導に生かす。
(2) 共通点や相違点をもとにしてすばらしい点をカードに書き出す。	魚の品質を高める ハマチの餌にオリーブの粉末を練り込むことで、肉質の改善を図り、他の産地との差別化を図ってきた。さーもんについても餌の改良によって脂のりのよい魚の開発を進めている。	
(3) カードを交流し、今後の養殖業の在り方について話し合う。	ブランド化を行う ハマチもさーもんもブランド化を行い、他産地との差別化を行ってきた。また、ブランドを守るために、飼育環境、給餌、出荷などで細かいきまりを設け、生産者がそれを守るよう努力している。	
	安心・安全な生産 ハマチの病気を防ぐためのワクチンの開発を継続的に進め、健康な魚の養殖に努めてきた。また、トレーサビリティを実施するなど、消費者に安心して食べてもらえるための努力を続けている。	
	ニュースの主張になるのは、どのような取り組みだろう。ハマチとさーもんの養殖から見付けたよさを交流してニュースの主張をまとめよう。	○ カード化されたものをもとに、自分たちのニュース番組の主張点としてどれがふさわしいか、吟味するようにする。
	水温差を利用した取り組みは香川の自然環境を巧みに生かした取り組みだよ。 香川の特産物であるオリーブを餌にして、肉質をよくするのはすばらしいと思うよ。 ブランド化の取り組みによって、市場での人気も出てきているから、これを紹介したい。 消費者の関心は、安心・安全な食材ということにあるから、この取り組みが大切だよ。	○ 話し合いが続くような場合は、香川のどのような取り組みが日本の水産業にとって今後役立つのか考えるよう助言する。
3 話し合ったことをもとにニュースの原稿としてまとめる。	どれもすばらしい取り組みだけど、ニュースの主張になるのは、香川独自の取り組みで、これからの水産業を考えるきっかけとなる自然環境を生かした取り組みがよいのではないだろうか。	○ 話し合いをまとめ、決まったことをどのようにニュースで伝えたらよいのか考え、ノートに文章化するようにする。
4 次時のめあてをもつ。	香川県の養殖では、これまでになかった水温差を生かした養殖が行われている。そこには、その地域の環境を巧みに生かした漁業者の知恵が感じられる。このように、全国各地においても、その地域の環境を最大限に生かすことによって、水産業をもっと盛んにできるのではないか。	○ 本時考えた主張を中心に、ニュースの構成を考えることを話し、意欲化を図る。
	ニュースの主張が決まったよ。次の時間では、今まで学んだことをもとにしてニュース番組の構成を考えていこう。	

5 年 単元名「自然災害と森林」（全 12 時間）

段 階	時	学 習 活 動
I 「学習問題の設定、学習への見通し」	① ②	○日本で起こる自然災害の歴史や分布を調べ、学習問題をつくる。 ・地図や年表から近年の日本の自然災害の傾向を調べる。 ・2020 年 7 月の球磨川の氾濫の様子を動画で見て、単元の学習問題をつくり、学習の計画を立てる。 【学習問題】 水害が起こりやすい日本で、これから起こる川の水害の被害を減らすためには、どうすればよいだろう。球磨川をもとに川の水害の被害を減らす方法を考えよう。
II 「現状の理解、問題点の把握」	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	○球磨川流域の地形や、災害対策などの取り組みについて調べる。 ・球磨川の形や流域の地形などの特徴について資料から調べ、白地図にまとめる。 ・球磨川沿いの土地利用の様子について、地図や航空写真から調べる。 ・球磨川の近くに住む人々の生活と川はどう関わっているかを、動画などで調べる。 ・国や県の災害対策について資料から調べ、分かったことをカードにまとめる。 ・森林の働きや、森林組合の人たちの取り組みについて、資料をもとに調べる。
III 「深まった課題の設定」	⑧	○集中豪雨の恐ろしさや川辺川ダムの建設について、市民団体の人から話を聞き、深まった課題をつくる。 【深まった課題】 これから先、集中豪雨による川の災害の被害を減らすために大切なことは何だろう。
IV 「多角的に考察、選択・判断」	⑨ ⑩ ⑪ (本時)	○これからの日本の災害対策について、大切なことを話し合う。 ・知事がダム建設を決めた理由やそれに関わるデータを調べ、ダム建設の是非を話し合う。 ・深まった課題についての自分の考えを書き、グループで交流する。 ・それぞれのグループの考えをもとに話し合い、これからの災害の被害を減らすために大切なことを見付ける。
V 「自分なりの最適解の表出」	⑫	○これからの川の災害の被害を減らすための自分の考えを意見文にまとめる。

本時の学習指導

(1) 目標

- ・ 国土と自然環境について、災害の被害を減らす方法を比較・関連付け・総合して考え、これからの日本の国土保全で大切なことに気付いている。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	問題を解決していく過程	教師の指導と評価
【単元の課題】 水害が起りやすい日本で、これから起こる川の洪水の被害を減らすためにはどうすればよいだろう。球磨川をもとに川の洪水の被害を減らす方法を考えよう。		○ 単元の課題を常に意識できるように、単元を通して何を解決するために学習しているかを問う。
1 前時の振り返りをする。	川の洪水の被害を減らす方法を個人でカードに書いたね。今日はそれをもとに話し合い、大切なことを見付けよう。	○ 「手渡す会」の方とオンラインで対話できるようにしておくことで、自分たちの考えを伝えるという意識をもって活動ができるようにする。 ○ 前時までに、川の洪水の被害を減らす方法を個人でカードに書いておくことで、それをもとにグループで思考操作を行えるようにする。 ○ 個の考えを生かしてグループで考えをまとめられるように、机間指導の際に「そう考えたわけ」や「考えの内容」について尋ねたり、助言したりする。 評：友達の考えと比較・関連付け・総合して考える姿を想定した評価指標に基づいて評価し、単元で目指したい姿につながっていくように指導する。 ○ 出てきた取り組みの中で、被害を減らすのに最も効果的なものはどれかを問うことで、それぞれを比較して、効果を考えられるようにする。 ○ これから先の未来のことを考えられるようにするために、現状と比較できるような問い返しを、必要に応じて行う。 ○ 話し合った内容について、「手渡す会」の方に価値付けていただくことで、川を守るためには防災対策、森林の整備、環境の保全の3つをバランスよく行うことの大切さをより強く実感できるようにする。
2 本時の課題を確認する。	これから先、集中豪雨による川の洪水の被害を減らすために大切なことは何だろう。	
3 被害を減らすための方法を話し合う。 (1) グループでカードを分類し、それをもとにグループの考えをつくる。	まずグループはグループで話し合っ、被害を減らすための方法をまとめよう。	
	中流は川幅がせまいから、川幅を広げれば、増水を防いで被害を減らせると思うよ。 上流の人吉市のあたりは土地が低いから、堤防を高くすればいいと思うよ。	
	森林は水をためこみ、ゆっくりと流してくれるから、森林を増やすとよいよ。 林業で働く人が減っているから、林業をする人を増やす取り組みを行うとよい。	
	ダムは環境を破壊してしまうから、ダムではなく他の方法をとるべきだよ。 地球温暖化を防ぐ取り組みをすれば、集中豪雨も少なくなるから、被害もへる。	
(2) 全体で、それぞれの方法を比較し、被害を減らすために大切なことを見付ける。	その土地に合わせた対策をする。 林業を発展させ、森林を増やす 環境を守る取り組みをする。	
	それぞれのグループからたくさん方法が出てきたね。これらの方法の中で、同じような集中豪雨があったとき、被害を減らすのに最も効果的なのは、どの取り組みだろう。	
	洪水の被害が起きそうな場所に、対策をするのが一番被害が減ると思うよ。だって、球磨川の近くにはまだまだ危ない場所がありそうだから… 森林をふやすだけでなく、手入れをきちんとすれば、森林のはたらかしで洪水がおさえられるから、被害は減ると思うよ。 ダムの緊急放流や、地球温暖化の防止のような、急に水害が起きることを防ぐ取り組みをすれば、被害は減っていくと思うよ。	
	どの取り組みも、被害を減らすためには大きな効果がありそうだよ。1つだけ行っても、被害を減らす効果は少なそうだ。	
4 本時のまとめをする。	「手渡す会」の方の話	
5 次時への見通しをもつ。	これから先の川の洪水の被害を減らすためには、防災対策、森林の手入れ、環境の保全という3つのことを、どれもバランスよく行っていくことが大切だ。 今日分かったことは、他の川でも同じように言えるのかな。他の川のことも調べてみたいな。	

5 年 単元名「環境を守るわたしたち」（全6時間）

段 階	時	学 習 活 動
I 「学習問題の設定、学習への見通し」	①	○瀬戸内海のイメージについて話し合ったり、過去の汚れた瀬戸内海の様子について調べたりして、瀬戸内海の環境について調べる学習問題と学習計画をつくる。 【学習問題】 瀬戸内海の環境をだれが、どのようにして守っているのだろうか？
II 「現状の理解、問題点の把握」	② ③	○瀬戸内海の水質汚染や赤潮の被害について調べ、年表や地図にまとめる。 ・瀬戸内海の水質汚染の変遷や赤潮の被害、水質の改善の様子について、香川県赤潮研究所の方に教えてもらい、年表にまとめる。 ・現在、水質を守るために瀬戸内地域の協力のもと行われている取り組みについて調べ、地図や関係図にまとめる。
III 「深まった課題の設定」	④	○高松市環境森林部環境管理課の方から、現在の瀬戸内海で課題となっている海ごみ問題について教えてもらい、海ごみ問題に関して考えていく深まった課題を設定する。 【深まった課題】 瀬戸内海で新たに課題となっている海ごみ問題を解決するには、どうしたらいいのだろうか。
IV 「多角的に考察、選択・判断」	⑤ ⑥ (本時)	○海ごみの特徴や発生の原因について調べ、海ごみを解決するための方法を考えて話し合い、学級全体でよりよい解決方法を選択・判断し、環境管理課の方に提案する。 ・海ごみを解決するための方法について、海ごみの削減に取り組んでいる地域の方にインタビューをしたり、調べ活動を行ったりして、自分なりのアイデアをまとめる。 ・環境管理課の方や地域の方とともに、瀬戸内海の家ごみを減らすために取り組みについて話し合う。
V 「自分なりの最適解の表出」		○瀬戸内海の家境に関する学習や、海ごみを解決するための取り組みについて話し合ったことを通して、自分なりに考えたことをノートにまとめる。

本時の学習指導

(1) 目標

- 海ごみを減らすためのアイデアを、瀬戸内の地理的環境や人々の暮らしとの関連から捉え直し、吟味することで、よりよいアイデアとは何か、自分なりの判断基準をもつことができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	問題を解決していく過程	教師の指導と評価
【単元の課題】 瀬戸内海は 1970 年代の様子と今の様子を比べると瀬戸内海はとてもきれいになってきているね。瀬戸内海はどのようにきれいになったのだろうか？		○ これまでの単元の流れや、単元のゴールを確認し本時への意欲や課題意識を高める。
1 前時までの活動を振り返り、本時の活動の見通しをもつ。	今、海ごみが課題として残っている。どうすれば海ごみを減らすことができるのだろうか。海ごみ削減アイデアを考えて、海と日本プロジェクトで発信しよう。	○ 瀬戸内海のごみの特徴を地理的な視点から捉えることができるように、瀬戸内海図を見渡せる地図を掲示しておく。 ○ 各グループで意見をまとめ、話し合いに臨むことができるように、本時までに、海ごみ削減につながるアイデアとしてふさわしい内容とその根拠を明らかにしておく。 ○ グループで 1 つの内容を発信するという条件を設定することで、子どもたちの見方・考え方の違いを表出できるようにする。 ○ 自他のグループの意見を比較し、アイデアのよさや課題を見出すことができるよう、事前に投票した結果、上位 3 つのグループを紹介する。 ○ 地域の方が選んだ、アイデアを紹介することで、新たな視点を獲得する。 ○ 一人一人の判断基準の違いを表出し、互いの考え方の違いに気付くことができるよう、選択した結果をもとに、なぜそのグループの提言がいいと思ったかを問いかける。 評：自分のグループのアイデアを他のグループとの比較や友達からの意見をもとに、より実現性や説得性が増すような内容へと再構成しようとしているか 4 観点の評価指標から見取り、支援に生かす。説得力を増すための資料の追加や選択に悩む子どもには、これまでの学習内容から関連する資料はどれかを問いかけたり、一緒に考えたりする。
2 本時の課題を確認する。	海ごみ削減のアイデアをもっとよくするためには、どうすればいいのだろうか？ みんなは、どのグループのアイデアを選んだのかな？	
3 海ごみ削減のアイデアをよりよくする方法を考える。	7 班 子どもも喜ぶゴミ拾いイベント 瀬戸内海周辺の県との協力が必要。さらに、子ども達にも興味を持ってもらうために、ゴミ拾いの景品をプレゼントする。 5 班 ゴミ回収ロボ 瀬戸内海のごみの多くは海底ゴミ。回収しづらく危険。ロボで安全にきれいになり、さらにゴミをエネルギーとして再利用できる。 4 班 ゴミ箱をたくさん設置 ゴミを海や川に捨てる人がいなくなれば、海ごみが減る。実際にスイスでも行われている政策である。	
(1) 前時に行った投票結果を発表する。		
(2) 3 つのグループが選ばれた理由やアイデアへの意見を交流する。	たくさんの人に興味を持ってもらえることで、効果がある。 海底のゴミを回収できるのはいいけど、本当にできるの？ ゴミを自動で回収するための費用はどうしたらいいのだろう。	
(3) アイデアをよりよくする視点や方法をまとめる。	1 人 1 人の意識を高めるためには、楽しんでもらうことが大切。体験をして、意識を変えてもらうことが大切だね。 実現可能性は低いけど、堆積ゴミをそのままにする訳にはいかない。未来にきれいな海を残したい。 スイスは池で瀬戸内海は海。費用の面で問題がありそう。費用をどこから出すのかを考えよう。	
5 グループのアイデアを見直し、内容の修正を行う。	よりよいアイデアにするためには、「人の意識が変わるか」「実現可能性」「効果があるか」「費用の問題」など、様々な考え方からアイデアを見直す必要があるね。そして、どのアイデアも「国民 1 人 1 人の協力」が必要であることが分かったよ。	
6 本時の振り返りと次時の見通しを確認する。	海ごみに対して興味がない大勢の人に対して、関心を持ってもらうためにはどうしたらいいかさらに考えたい。 海底ゴミを回収している香川県の漁師さんのことを紹介し、いろんな人が困っていることを一緒に知らせたい。 ゴミ箱以外のアイデアからも再度考えてみよう。もっと費用がかからずいいアイデアはないかな。	
	これまでの学びを生かし、アイデアを提案するぞ！	

6年 単元名「未来へ向かう、コロナ時代の国際協力」(全8時間)

段 階	時	学 習 活 動
I 「学習問題の設定、学習への見通し」	① ②	○世界の課題と解決に向けた取り組みを調べ、学習問題をつくる。 ・世界の課題(生活知)を表出したり、資料を調べたりして、世界が抱えている課題について知る。 ・世界のさまざまな課題の解決に向けた取り組みについて調べる学習問題をつくり、学習計画を立てる。 【学習問題】 世界にはさまざまな課題が存在する。課題を解決するために、日本はどんな役割を果たせばよいのだろうか。日本の国際協力の具体例を手がかりに、今後のアフターコロナの世界の中で日本が取り組むべき国際協力について考えよう。
II 「現状の理解、問題点の把握」	③ ④	○日本が取り組んでいる国際協力について調べる。 ・教科書等から世界の人々が取り組んでいる国際協力について調べる。 ・日本の取り組みを調べる
III 「深まった課題の設定」	⑤	○実際に活動に取り組んでいる JICA の方や青年海外協力隊の方の話を聞き現状と課題をまとめ、深まった課題を設定する。 【深まった課題】 青年海外協力隊の方の交流を通して、様々なことが見えてきた本当に日本がすべき国際協力とはどんなことだろう。これまでの調べや、資料等を手がかりに、日本が目指す国際貢献の在り方を考え、JICA 四国センターに提案し、私たちの意見を街頭で展示してもらおう。
IV 「多角的に考察、選択・判断」	⑥ ⑦	○日本が担うべき国際協力とはどのようなものか構想する。 ・青年海外協力隊の方から聞いたことや資料を手がかりに、自分の考えを構想する。 ・友達との交流を通して、日本の国際交流の在り方についてクラスの考えをまとめる。
V 「自分なりの最適解の表出」	⑧	○これまでの調べを振り返り、今後のさらなる国際協力の発展のために、日本や自分ができることを各自が提案書にまとめる。

本時の学習指導

(1) 目標

- これまでの学びを手がかりに、日本が行うべき国際協力について構想することができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	問題を解決していく過程	教師の指導と評価
【単元の課題】 世界にはさまざまな課題が存在する。課題を解決するために、日本はどんな役割を果たせばよいのだろうか。日本の国際協力の具体例を手がかりに、今後のアフターコロナの世界の中で日本が取り組むべき国際協力について考えよう。		○ これまでの学びをふり返し、単元の課題を共有し、現時点での自分の考えを整理し、プレゼン資料として表現しておく。
1 前時までの活動をふり振り返り本時の学習課題を確認する。	ガボンで活躍する川原さんの取り組みから、日本の国際協力の現状と課題が見えてきたよ。 これからの時代には、日本にしかできない国際協力が求められるね。 これからの日本は、どのような国際協力を行うべきだろうか。 川原さんの経験や取り組みを手がかりに、これからの国際協力の在り方について考えていこう。	○ 青年海外協力隊の方の話を手がかりに、具体的に取り組むべき内容を考えるように伝える。 ○ 一人一台端末を活用して、個々の意見をプレゼン資料として作成し、可視化し全体交流しやすいようにしておく。
2 日本が今後大切にしていくべき国際協力の在り方について具体的な取り組みを考える。 (1) 友達と意見を交流することで、個の考えを深める。	手洗いの指導や水道の整備など日本がこれまで大切にしてきた保健・医療支援を世界中に広めていけばいいと思う。 ICTを活用した教育についての指導を充実させたいと思うよ。新しい技術がコロナの時代には必要だと思うよ。 日本がもっている農業や工業の技術を提供していくことが大切だと思うよ。ものづくりは日本の得意分野だからね。	○ 日本人が取り組むべき国際協力の在り方という視点で、考えを吟味したり意見交流したりするように助言する。 ○ 交流の際には日本ならではの国際協力の在り方を見出すように、自他の考えの共通点や類似点、相違点を明確にするよう助言する。
(2) 全体交流を通して、それぞれの意見の吟味を行う。	今までの取り組みを手がかりに、組み合わせたり、新しいアイデアを見出したりすることも必要だね。 ICTと保健・医療を合わせた取り組みができると、より活動を充実できそうだ。 ものづくりの学校をつくると、一度に多くの人に指導ができて効率的だね。 日本独自に技術を世界に伝えることは、日本の伝統文化を伝えることにつながるね。	○ 日本が今後行っていくべき理想の国際協力の姿を見出せるように全体交流で視点を焦点化できるように助言する。 ○ 具体的事例を組み合わせたり、概念化したりしながら板書を関係図に構造化することで、クラス全体で最適解を導き出せるようにする。
(3) 全体交流を通して、納得解を見出す。	日本人がこれまで当たり前に取り組んできた技術や文化、取り組みの中に世界で求められるものがたくさんあるんだね。 これから日本が取り組んでいくべき国際協力の形は、日本ならではの技術や文化等を持続可能な形で世界の人に伝えたり、教えたりしていくことが大切だ。	評：日本が取り組むべき国際協力について、これまでの学びを根拠として構想できたかを評価し、子どもたち一人一人が自分の最適解を導き出せるように個別支援を行う。
3 自分の考えを再度見直し、自分の最適解を考える。	みんなでまとめたことを手がかりに、もう一度自分の考えを見直してみよう。 整理整頓や手洗いがいいなどを指導してはどうだろう。 日本の教育を伝えていくことは遠隔でもできそうだ。 最も得意なものづくりを伝えていくのがいいと思う。	○ これまでの学びを生かし、これからの日本の国際協力の在り方について再度考えを構想することで、自己の考えをより強固にできるようにする。
4 本時をふり振り返り、まとめを行う。	私たちが考えたことを JICA に提案しよう。	○ 今後の日本の国際協力の在り方について JICA の方に提案書を書くという課題を共有し、次時の学びにつなげる。

(他地域でも参考となると考えられる点)

- 小学校段階における主権者として必要な資質・能力について、本校は「公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲」「合意形成・意思決定する力」「多角的に考察し、公正に判断する力」「根拠をもって主張し、他者を説得する力」の4つと捉えた。この4つの力をもとに具体的な子どもの姿を想定し、校内で共有することで、社会科を中心としながらそれぞれの学校の実態に応じて資質・能力を育成することができると思う。
- 本校は、主権者として必要な資質・能力を育むための問題解決プロセスを設定した。また、その過程で、4つの資質・能力を育む場面を計画的に位置付け、授業実践を行った。各校においても、この5段階の問題解決プロセスを実態に応じて用いることで、主権者として必要な資質・能力を着実に育むことができていると考えている。
- 本校では、社会科を中心としながら、「ちょうせん」の時間との有機的な関連を図りながら授業実践を行ってきた。また、4年間の社会科を見据えた上で「ちょうせん」の時間との関連を指導計画として整理した。各校においても、社会科と総合的な学習の時間等との関連を意識し、社会科の問題解決がより効果的に行えるよう計画することで、主権者として必要な資質・能力の育成につながると考える。

課 題

- アンケート項目の、「自分の考えていることが、地域や社会の役に立つことがある」という項目の伸びが十分ではなかった。(他の項目と比較して伸び率が低かった)これは、社会科では、自分たちが発信したことの成果を十分に感じないままに次の単元に入ってしまい、社会的な有効感を感じにくくなっているということが考えられる。
- 社会科以外の教科等との関連を考えた年間指導計画の必要性を感じた。また、その計画をカリキュラム・マネジメントの視点に立って不断に見直していくことも必要である。
- 主権者としての資質・能力をどのように見取り、他教科等とどう関連させながら伸ばしていくのかについては、今後の課題である。